

代宿地域支援センター等譲渡に係る保護者説明会での主な御意見（概要）

※→以下は事業団・大久保学園からの回答
(H27. 10. 10)

○これまで船橋市を中心に事業展開をしてきた大久保学園が、袖ヶ浦市において事業を引き継ぐということなので、もう少し詳しいビジョンを伺いたい。

→将来的なビジョンについては色々と考えてはいるが、公募条件には5年間の事業継続が示されており、当面は現在の形を引き継ぐ。今後、利用者、保護者のニーズや地域ニーズを把握し、時間をかけて丁寧に意見交換して今後の事業展開を決めていきたいと考えている。(大久保学園)

○選定委員会の見解では、就労継続支援B型事業を継続するにあたっては問題点があるとのことであり、また親としては、今までの職員の方々に継続してやっていただけるのかということも心配しているが、その検討経過を教えてください。

→就労継続支援B型事業の問題については、当法人の提案に不十分なところもあった。今後、事業団や行政と調整し、利用者に影響がないようにしていきたい。

職員の採用については、当法人でも職員の皆さんに残っていただきたいと考えており、その点では保護者の皆さんの気持ちと一緒にある。(大久保学園)

→職員の継続雇用については、事業団の職員に対して意向調査の実施を予定しており、11月の早い段階で具体的な方策を検討し、また大久保学園や佑啓会と綿密に打合せを行って課題解決に取り組み、4月以降も安心して利用できる体制を確保していきたいと考えている。その経過については、また保護者の皆さんに情報提供させていただきたい。(事業団)

○大久保学園の家族会活動は、年1～2回の集まりということだが少ないのではないか。また苦情解決として「なんでも相談室」を設置しているということだが、今までにどんな相談があったのか教えて欲しい。

→家族会は、各施設・事業所単位にあり、多いところでは2か月に1回、入所施設の場合は年4回ほど開催している。法人全体の家族会は年1回の開催で、国の福祉制度の変更等について、家族に正しくお伝えするために法人全体として開催している。

「なんでも相談室」については、外部の方に相談員として月に1度来ていただき、利用者からの「海外旅行に行きたい」「仲の悪い友だちの話」等の相談を聞いていただくほか、保護者の相談も受け付けており、最近では「通所から入所に切り替えたい」、「グループホームを利用したい」というものや親が高齢化を迎えている中で、子どもの行く末を案じた相談が多くなっている。(大久保学園)

○大久保学園も佑啓会も職員を全員引き継ぎたいということだが、事業団としては優秀な職員が全員大久保学園に行ってしまったら困るのではないか。

→現在、介護人材の確保が非常に厳しく、県内の民間施設でも職員の応募がほとんどないという状況であり、事業団においても厳しい状況であると自覚している。次年度に向けて、人材の流出を最小限に食い止めて、4月のスタートが切れるようにと考えている。

また、移譲される施設・事業所についても、安定して事業が運営できる状況まで、両法人と連携をとりながら、利用者が困らないように最大限努力していきたいと考えている。(事業団)

○これまでは毎年、事業団内での人事異動があったが、今後はそれが固定化され、何年も同じ部署にいて慣れが出てくると、色々な問題が出てくる要因の一つになるのではないか。1年半前の事件・不祥事が起こった要因として、職員の体制、指導力の問題は大きいのではないかと考えているので、家族会からの要望として、指導する立場の職員の育成をしっかりと行っていただきたい。

○選定委員会での評価において、「事業内容が一部の利用者に対して不当に利用を制限又は優遇するものではないか」、「事業の譲渡を希望する理由は適切か」、「地域住民や市町村、医療機関等の関係機関との連携に関する基本的な考え方は適切か」、「共同生活援助事業について、支援内容が利用者の特性に合わせた適切な計画となっているか」、「就労継続支援B型事業について、生産活動内容、工賃の考え方等は、適切に計画となっているか」の項目において、大久保学園は、プレゼンテーションに参加した他の団体よりも低い評価となっているので、検討して努力していただきたい。

→選定委員会の評価については真摯に受け止めている。

コンプライアンスについては、今まで監査等で指摘されたことはなく、利用者に対して不当に利用を制限するようなことはないと思っているが、選定委員会での評価がこのようであるのであれば、次のモニタリングの時までにはしっかりと整備していかなければと考えている。

地域性については、バックアップ体制において当法人は船橋エリアにあり、他の団体は地域性で近いところにあるため、このような結果になったと思っている。就労継続支援B型事業については、当法人は今まで就労継続支援B型事業の経験がないのでこのような結果になったと考えている。

いずれにしても今後は是正し、修正していく。(大久保学園)

○大久保学園が設立したときの信念、理念はどのようなものか。

また、親も高齢化しており、今後の子供のことを心配しているが、大久保学園では

どのように考えているのか。

→当法人の学園名の「大久保」は個人の名前であり、障害者の雇用を積極的に進めている経営者であった。当時は養護学校もなかったもので、様々な障害のある方を受け入れていた。障害があっても自立し、社会参加をすることが当法人の根本的な考えであり、設立当初から充実した形で健康管理、作業活動をつうじて働くことに重きをおいてきた。

高齢化については、当法人の利用者も高齢化が進んでおり、雇用された方が高齢になって学園に戻ってきたり、入所施設やグループホームで生活している方たちも高齢化している。高齢であるから大久保学園では見られないという対応をしたことはない。地域移行した方や施設入所している方たちの高齢化に対してどうするかは、個別の状態に応じて丁寧に支援していく。(大久保学園)

○大久保学園の職員の定着率はどの程度か。採用はどのように行っているのか。

また、譲渡にあたっての資金調達で将来的に家族に負担を求めるようなことはないか。

→職員の定着率については、当法人では離職率はそれほど高くなく、現在260名以上の職員（正規職員6割以上）がいるが、退職は毎年平均して7～8名となっており、大体が勤務年数5年以内の方で、ベテラン層の退職は殆どない。採用については、各施設長、常務理事が入って筆記試験と面接で行っている。採用から3か月間は試用期間として研修等を行って、その後、正規職員として採用している。

資金調達については、当法人は健全な経営を行っており、全く問題はない。

また、御家族にご負担を求めるようなことはないので安心して欲しい。

(大久保学園)